お祖師さまを巡る人々 第2回

高祖日蓮大士ご降誕 800年慶讃

お祖師さま（高祖日蓮大士）は、故郷である安房国・小湊（千葉県）の清澄寺というお寺に勉強するために入られたんだ。そのお寺で先生としていろいろなことを教えられたのが、後に得度（お坊さんになること）して師匠となる道善房なんだ。今月は、その【道善房】のお話をするね。

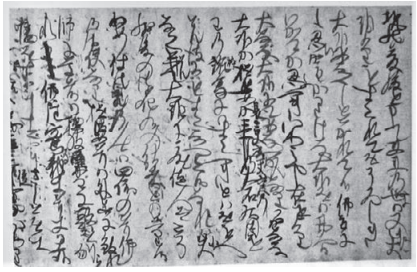
道善房

清澄寺の住職の【道善房】は、本読みや手習い（お習字）がうまく、何でもすぐに覚えてしまうお祖師さまを「本当に賢い（頭の良い）子だ」と、大変感心（りっぱな行動や、すぐれた技量〈身につけた能力〉に心を動かされること）していたんだ。

清澄寺に入って四年後の嘉禎三年（一二三七）、お祖師さまは、【道善房】を師匠として得度し、仏様の教えを学び修行に励むことになったんだよ。

でも、田舎の小さなお寺では、教えてくれる人や十分な書物もなかったんだね。そこでお祖師さまは、師匠にお願いし鎌倉や京都、滋賀、奈良、和歌山で修行することになったんだ。

十一年間の修行を終え、お祖師さまは故郷に戻ってきたんだ。そして【立教開宗】（令和元年五月号の佛立新聞『お祖師さまをお訪ねする物語第十七回』を読んでね）をされたんだね。



「報恩抄」の御真筆の断簡（池上本門寺蔵）
「報恩抄」は師匠・道善房の死を弔うとともに、真の「報恩」について解き示されたもの。御真筆は身延山久遠寺にあったが明治八年の大火により焼失。池上本門寺の他五ヵ所に断簡が残っている

報恩抄

師匠・道善房の死去の報を受け、悲しみにくれながらも、師の恩に報いる長文の追悼文である「報恩抄」をしたためられた

【立教開宗】のあと、清澄寺で「仏様の正しい教えは法華経の御題目のご信心」と、お祖師さまが御法門をされると、集まった多くの人々が念仏の信者だったのでみんな怒り出すんだ。特に地頭（その土地を治める人）の東条景信の怒りは凄く、お祖師さまを殺そうとしたんだよ。

師匠の【道善房】はこの騒ぎをおさめるため、お祖師さまを勘当（師弟の縁を切る）したんだ。そして、「ここ（清澄寺）を出て行け！」といわれたんだよ。

【道善房】はお祖師さまを人前ではきびしく叱りつけたんだけど、弟子の浄顕房と義浄房に「そっと逃がしてあげなさい」と、お祖師さまをかばわれて（いたわり守る）いるんだね。

【道善房】は、健治二年（一二七六）三月十六日に亡くなったんだ。最後まで念仏を信じ、お祖師さまが何度も御題目のご信心を勧めても、改宗（今まで信じていた宗教をやめ他の信心に移ること）することはなかったんだよ。

でも、お祖師さまは「自分を得度させてくださった師匠」と、【道善房】のことをとても大事に思い、感謝されているんだ。

師匠の死を知ったお祖師さまは、すぐに追善（死者のために生きているものが仏様に良い行いをすること）のために、【報恩抄】という書きものを書かれたんだよ。

お祖師さまは、弟子の日向を使いとして、清澄寺で兄弟子だった浄顕房と義浄房の二人あてに、この【報恩抄】を届けさせたんだね。そして、師匠のお墓の前でそれを読み上げさせたんだ。

お祖師さまは、お世話になった人に対する恩（他の人から与えられためぐみ）は絶対に忘れないんだよ。本当に立派なお方だね。

清澄寺・道善房墓所
境内にはお祖師さまの師匠・道善房の墓所がある

道善御房供養塚
千葉県君津市加名盛（かなもり）と呼ばれる山の中に道善房の供養塚がある。ここはお祖師さまが清澄寺で修行の折、法華経の一部を書写した石を埋めた経石塚（きょうせきづか）のある所。ここに道善房の供養塚が建てられている。ここの土地は道善房の生家である本吉家のものと言い伝えられている